2024年度　新年のご挨拶

在パース日本国総領事　内藤 康司

西豪州日本クラブの皆様、ご家族とともに充実したクリスマス及び新年を過ごされたことと思います。
本年もよろしくお願い申し上げます。
新年早々、能登半島での地震と羽田空港での航空機衝突と大きな災害と事故に見舞われました。被災された方々に対し、心よりお見舞い申し上げるとともに、亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。当館にもオーストラリア人よりお見舞いのメッセージが寄せられ感謝しております。ありがたいことに支援の申し出も寄せられ、寄付金口座についての情報を当館ホームページに掲載をさせて頂きました。
着任後、１年２ヶ月が経過しました。皆様とともに岸田総理をパースにてお迎えして以来、日豪間の前向きな進展が今日まで継続しております。昨年は人的交流が拡大し、冬の風雨を耐えたワイルドフラワーのように野原一面に花開いた年となりました。
西豪州日本クラブにおかれても、多数の有意義な取り組みを開催され、ラポート社が主催し公邸にて開催させて頂いた「パースで快適シニアライフ」には多数ご参加を頂きました。ホーキンスさんが活躍された９月の沖縄県の支援事業は、シドニーの沖縄グループとの連携で、魔法のような素晴らしい公演となりました。３月のパース日本祭りには過去最大の１万６０００名が参加し、ブルーム、サウスウェスト等各地の日本祭りも盛況となり、西豪州において日本人の魅力が「炸裂」した年となりました。姉妹都市交流も、西豪州と兵庫県、パースと鹿児島市、ブルームと太地町、バンバリーと世田谷区、バッセルトンと杉戸町、ハーヴィーと真岡市、ベルモントと足立区、フリーマントル港と名古屋港と順調にコロナ停滞期から再開しました。
政府間でも、西豪州首相の訪日が２回ありました。西豪州首相の訪日は 通常は数年に１回ですが、１月にマッガーワン首相(当時)の訪日でＪＢＩＣや兵庫県とＭＯＵを締結する等の進展があり、１０月の直行便再開の機会に、新任のクック首相とサフィオティ副首相が訪日し、日本で西豪州の重要性は再確認され、経済関係がさらに進展しました。日本と豪州との間には、第二次大戦後の困難な時代を未来志向の西豪州の政治家を中心に日本と協力する決意を行い、日豪両国の経済的潜在性を最大限に引き出し、鉄鉱石、ＬＮＧ産業を通じて世界経済に貢献した歴史があります。昨年、訪日から帰任したクック州首相は、日本を含むアジアの脱炭素化に貢献することを趣旨とする政策スピーチをされました。進展を反映し、昨年は西豪州議会にて日本との友好議連も設置されています。
厳しさを増す国際情勢において、ロシアのウクライナ侵攻の継続、中東情勢、インド太平洋における不透明な情勢のなか、同志国連携の中核である日豪連携は一層重要となっており、パースで両首相が署名した「安全保障協力に関する日豪共同宣言」に基づき、安全保障協力の内容が深化しております。今年は豪州におけるインド洋の玄関口であるパースでインド洋会議等、各種の重要な会議が予定されます。
こうした様々な分野での関係を支えるのは、草の根レベルでの人と人との信頼に基づく絆であり、日本と西豪州の間の最も大切な財産だとあらためて確信しております。
姉妹都市交流で長年貢献されたポーリン・ブーケリックさんが秋の外国人叙勲の授与者となり１１月３日に発表されたのも嬉しい進展です。そして日豪センターは１０月で３０周年を迎え、日本の総合的情報センターとして多大な貢献を頂きました。日豪架け橋として長年の貢献をされた方々に対し、あらためて心より御礼を申し上げます。
本年はパース鹿児島姉妹都市５０周年、東急グループのヤンチェップ開発も５０年で、延伸するヤンチェップ駅も近々完成しますので、記念式典が予定されます。３月２３日には第１０回目となるパース日本祭りが予定され、本年１１月には日本政府とＪＡＸＡ、西豪州政府の共催によるアジア最大の宇宙機関会議がパースにて開催されます。　特筆されるのが、砕氷艦「しらせ」です。毎年、南極観測越冬隊渡航の中継地としてフリーマントルに寄港する「しらせ」は、在留邦人・定住者の方々がフリーマントルの岸壁で日の丸を降って寄港を歓迎され、出航の際も安全を祈願して見送られています。何があっても岸壁に出向き日章旗で出迎え見送りを呼びかけられる小松崎会長はじめ日本クラブの皆様に心より感謝申し上げます。しらせの乗組員は、帽子を振って応えられ、この様子は艦上から記者がとった動画で日本でも報じられています。こうした西豪州の日本人の心意気により、しらせのオレンジ色の船体は、日豪友好の象徴として西豪州の方々に親しみをもって受け止められております。今年３月１８日～２３日にフリーマントルに寄港予定のしらせは、各方面からの期待に応え、コロナ後初めての交流行事に参加頂く予定です。昨年のパース日本祭りで、「盆踊りをやるならパース音頭をつくりたい」との意欲が高まり、当地に定住された故・籐音彦さんが３０年前に作詞した詞に、林せつ子さんが作曲、パース由来の振付けまで考えて、短期間で本当に「パース音頭」をつくりあげてしまうのを見て、楽しみながら仲間を増やして新しいものをつくりあげるパワーの大きさに驚きました。日本祭りでは、盆踊りの友好の輪が大きく広がる様子を見て感動しました。若手はパースを愛する先輩方を尊敬し、その精神が着実に受け継がれていることを実感しました。
在パース日本総領事館は、引き続き皆様の安全で安心した生活を支援して参ります。さらに交流の架け橋となる方々の活動を支え、その輝きが最大になるよう、いわばモデレーターとしての役割を果たせるよう努力して参りたいと思います。本年が実り多い年となるようお祈り申し上げます。